

# 2018年 観光動態調査（1月～12月）

柳川市観光課

## 1. 概要

2018年（1月～12月）の柳川市への観光入込客数は、過去最高を記録した2017年の約141万8千人から約5万4千人減少し、約136万4千人であった。2月から4月のさげもんめぐり、4月の大藤まつり及び7月のひまわり園の入場者数が減少したことに伴い、年間の入込客数が減少したものの。特に夏場は、猛暑と立て続けに発生・接近した台風の影響を大きく受けた。

観光消費額は、過去最高を記録した2017年の約67億7千万円から約66億5千万円と微減したが、1人当たりの消費額は、2017年の約4,770円から約4,873円に103円増加した。宿泊客数が増加したことにより、観光消費額の増加を後押ししたものの。

宿泊客数は、2017年の8万1,384人から9万5,776人に増加。2017年3月に「ホテルルートイン柳川駅前」が開業したことに伴い増加したものの。

観光客の交通手段は、乗用車利用者が約59%、西鉄電車利用者が約26%、大型バス利用者が約15%の割合となっている。割合だけを見ると、乗用車が増減なし、電車が1%増加、バスが1%減少となっている。

川下りの利用客数は、過去最高を記録した2017年の42万8,388人から42万2,671人となり、約6千人の減少となったが、ここ数年の動向を見ると、ほぼ横ばいで推移している。各舟会社が、引き続き海外の旅行会社等に向けたプロモーション活動を行ったことにより、高い利用客数を維持している。

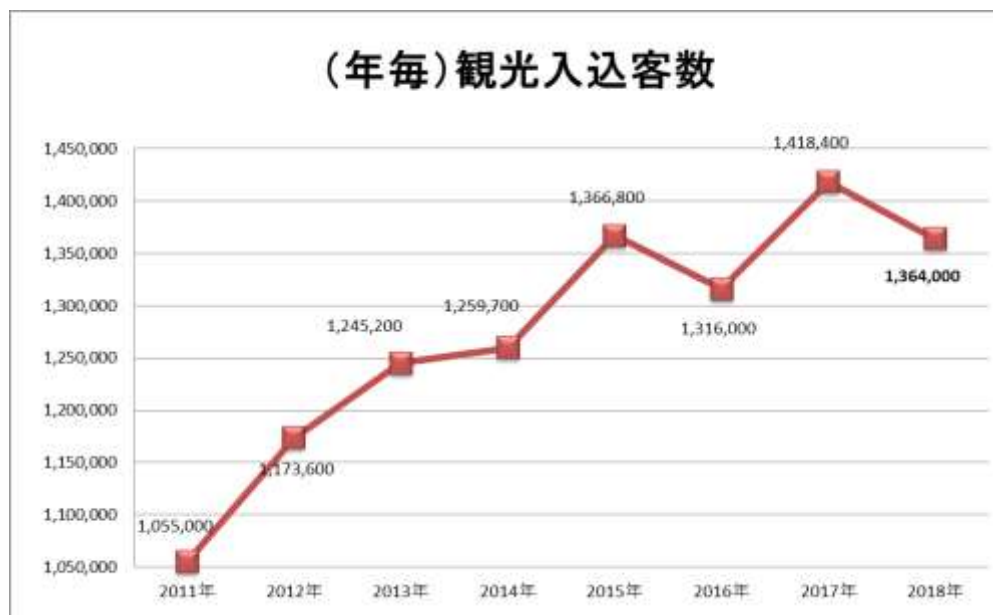
外国人観光客は、過去最高を記録した2017年の約24万5,359人と比較し約1万2千人減少し、約23万3,613人となったが、減少幅は少なく、2017年の高数値を維持している。月別では11月が最も減少している。九州運輸局が発表している九州の外国人入国者数も、10月から11月にかけて前年同月比マイナスとなっていたことから、入国者数減少の影響を受けたもの。

2018年の11月、12月の入込客数全体が2017年とほぼ同数を維持しているのは、平成30年7月から平成31年3月末まで実施された「柳川OUTING！」事業により、メディア等において柳川市の露出が増えたことに伴うもの。

## 2. 観光入込客数

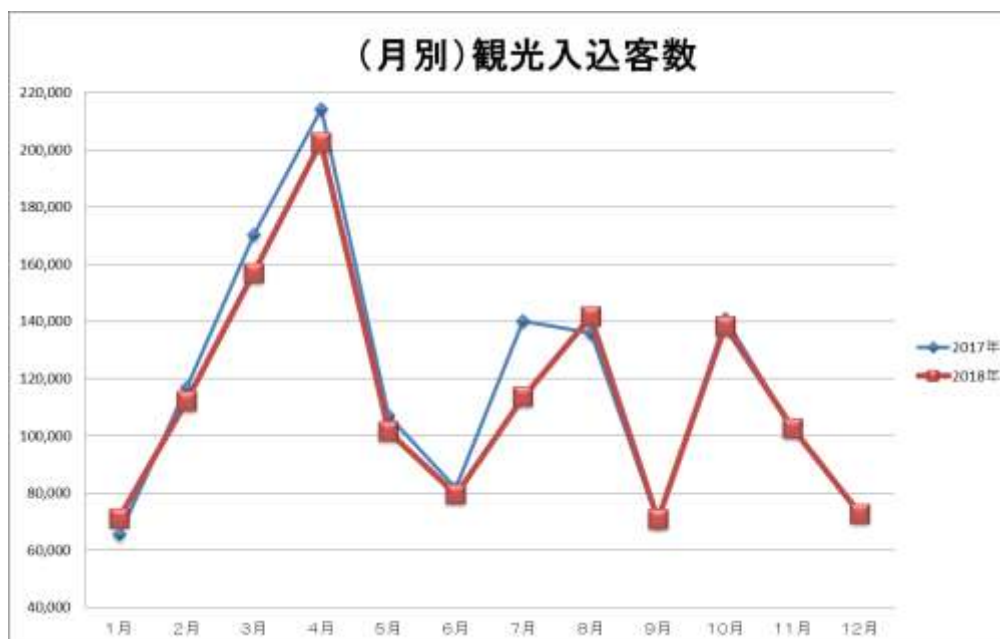
### (1) 観光入込客の推移

観光客の入込客数は、約136万4千人で、2017年と比較すると約5万4千人の減少となったが、統計を開始した1969年（昭和44年）以降3番目に高い数値を記録した。2018年は、夏場の猛暑と立て続けに発生・接近した台風の影響を大きく受けた。



### (2) 月別観光入込客数

入込客数を月別にみると、4月がピークとなった。16万人が来場した「大藤まつり」によるものであるが、「大藤まつり」の入込客数が前年度と比較し2万人減少したことから、4月の全体の入込み客数は、前年より微減した。7月は、猛暑や週末に立て続けに発生・接近した台風の影響を受け、前年と比較し大幅に観光客数が落ち込んだ。

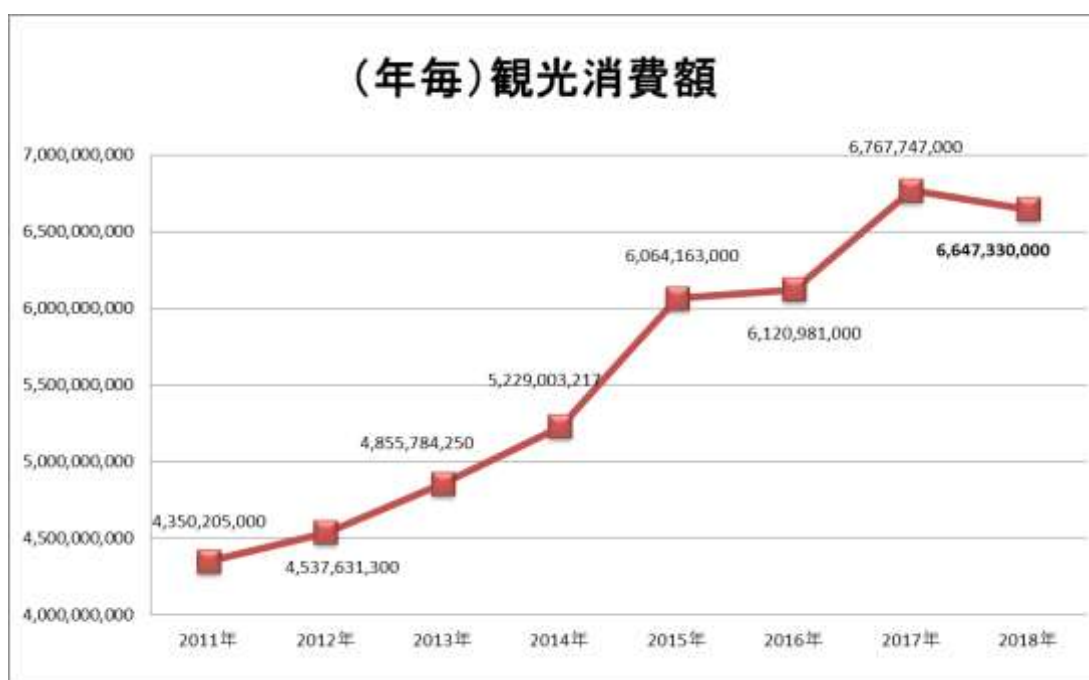


### 3. 観光消費額

#### (1) 観光消費額の推移

観光消費額は約 66 億 5 千万円で、2017 年と比較し約 1 億 2 千万円の微減となったが、1 人当たりの消費額は約 4,873 円で、2017 年と比較し 103 円増加した。これは、宿泊客数が増加したことに伴うもの。なお、2018 年の 1 人当たりの消費額は、合併後新市発足以来最高額となった。

消費額の主な内訳は、食事代が約 26 億 9 千万円で、前年と比較し約 8 千百万円の減少。お土産代は約 24 億 1 千万円で、前年と比較し約 7 千 7 百万円の減少。宿泊は約 8 億 5 千万円で、前年と比較し約 6 千 6 百万円の増加。川下りが約 5 億 7 千万円で、前年と比較し 7 千 4 百万円の減少となった。



## 4. 宿泊客数

### (1) 宿泊客数の推移

宿泊客は、9万5,776千人であり、前年と比較し、約1万4千人の増加となり、2005年の合併後新市発足以来、最高を記録した。(2) 宿泊客数(月別)で分かるように、2017年3月に「ホテルルートイン柳川駅前」が開業したことに伴うもの。

宿泊客数は前年比1.18倍であり、観光入込客数に占める宿泊客数の割合(宿泊率)は、2014年の3.3%から7.0%へ増加した。



### (2) 宿泊客数(月別)

2018年の月別宿泊客数は3月と11月がピークで、次に8、10月となっている。



## 5. 交通用具別入込客数

### (1) 交通用具別入込客割合

交通用具（大型バス・西鉄電車・自家用自動車）別の観光入込客割合は、自家用自動車利用者が全体の59%、西鉄電車利用者が約26%、大型バス利用者が約15%となっている。

このことから、自家用自動車や西鉄電車で移動する個人や小グループで旅行する個人型の観光が多くを占めていることが分かる。



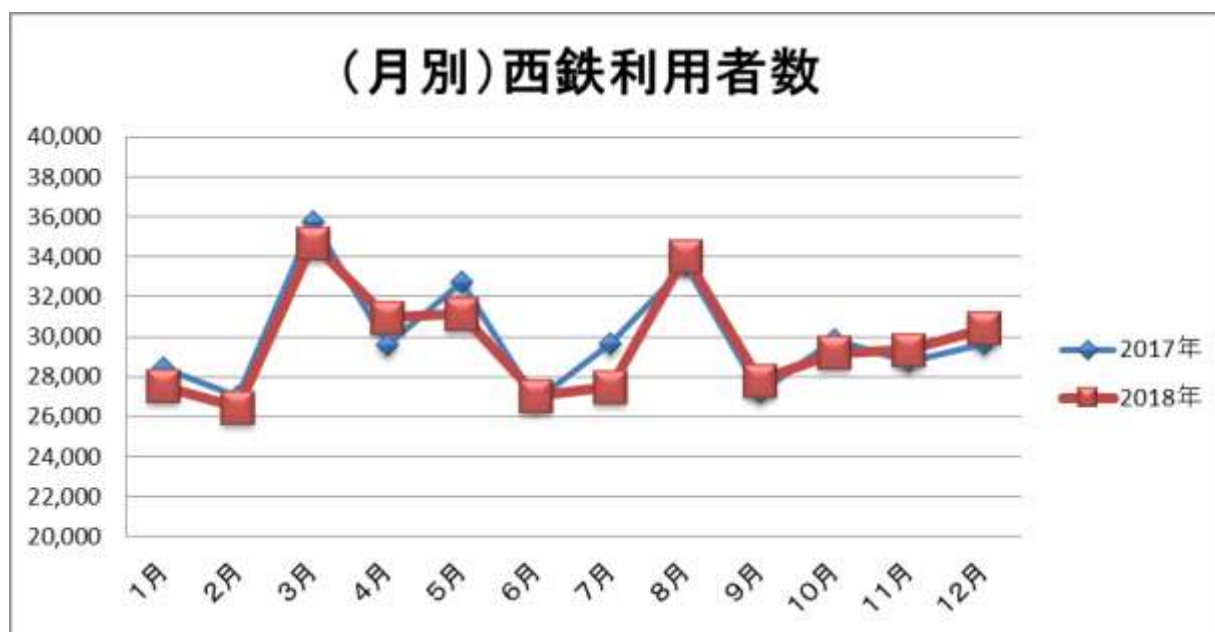
割合	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
自家用自動車	46.8%	54.4%	54.1%	54.1%	56.3%	54.7%	58.7%	58.9%
西鉄	33.9%	30.0%	28.3%	27.3%	25.7%	26.9%	25.3%	26.1%
大型バス	19.2%	15.6%	17.6%	18.5%	18.3%	17.0%	15.9%	15.0%

※割合の合計は、足して100%にならない場合があります。

## (2) 西鉄利用者（柳川駅）

西鉄柳川駅定期以外の乗降客数は、約 197 万 1 千人であり、2017 年と比較し約 1 万 6 千人の減少であった。そのうち、西鉄を利用する観光客入込客数は、35 万 6 千人であり、個人や小グループでの外国人観光客が増えていることが分かる。

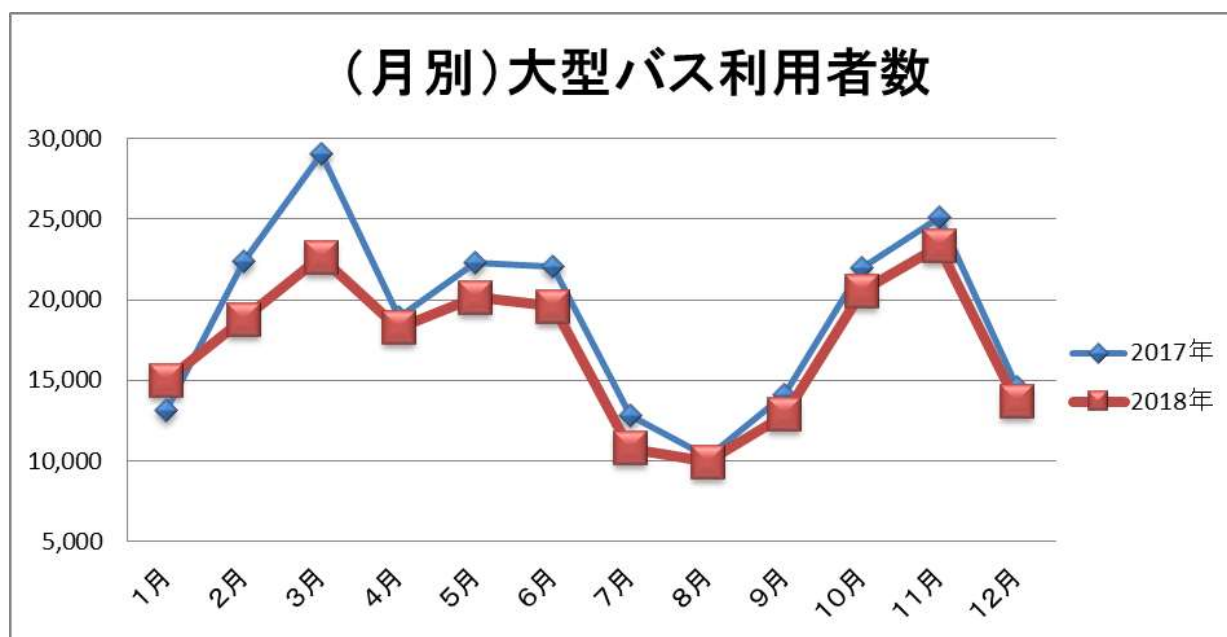
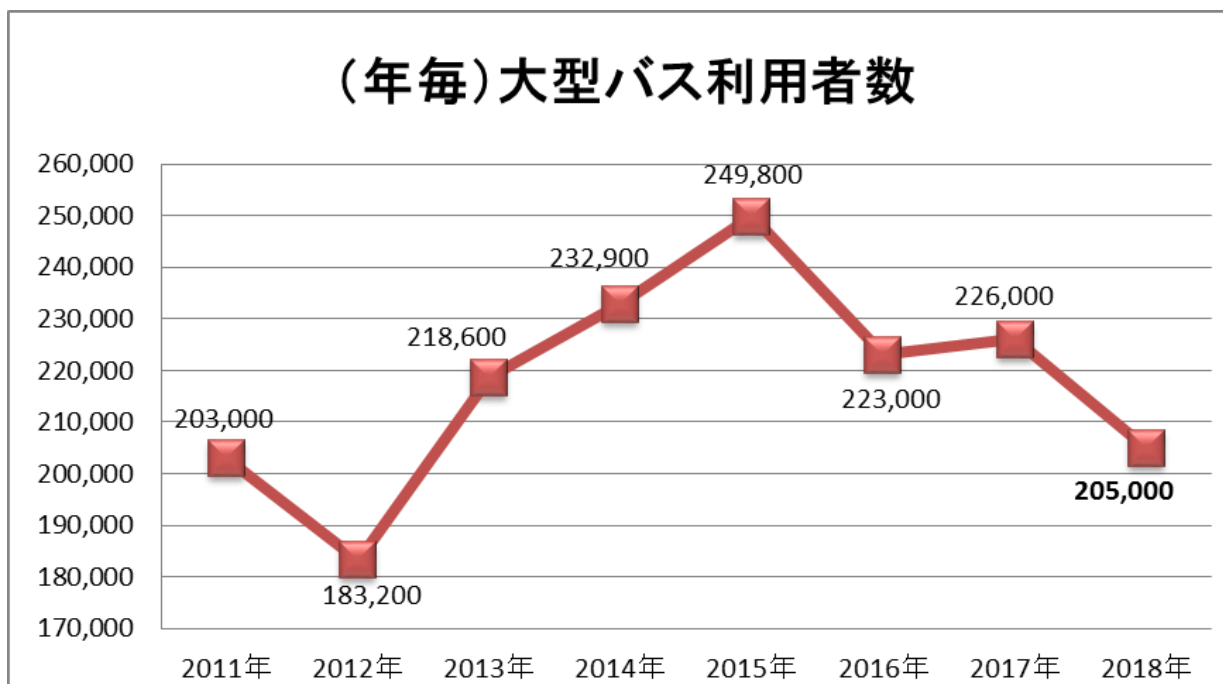
西鉄利用の観光客のうち、「太宰府・柳川観光きっぷ」、「柳川特盛きっぷ」等の企画きっぷを利用した観光客も見られた。「太宰府・柳川観光きっぷ」は、韓国、台湾、香港等でも販売されていることから、事前に購入した外国人観光客も多く訪れている。





### (3) 大型バス

大型バス利用者は、約 20 万 5 千人で、2017 年に比べて約 2 万 1 千人減少した。個人や小グループの旅行が増加している傾向が続いている。

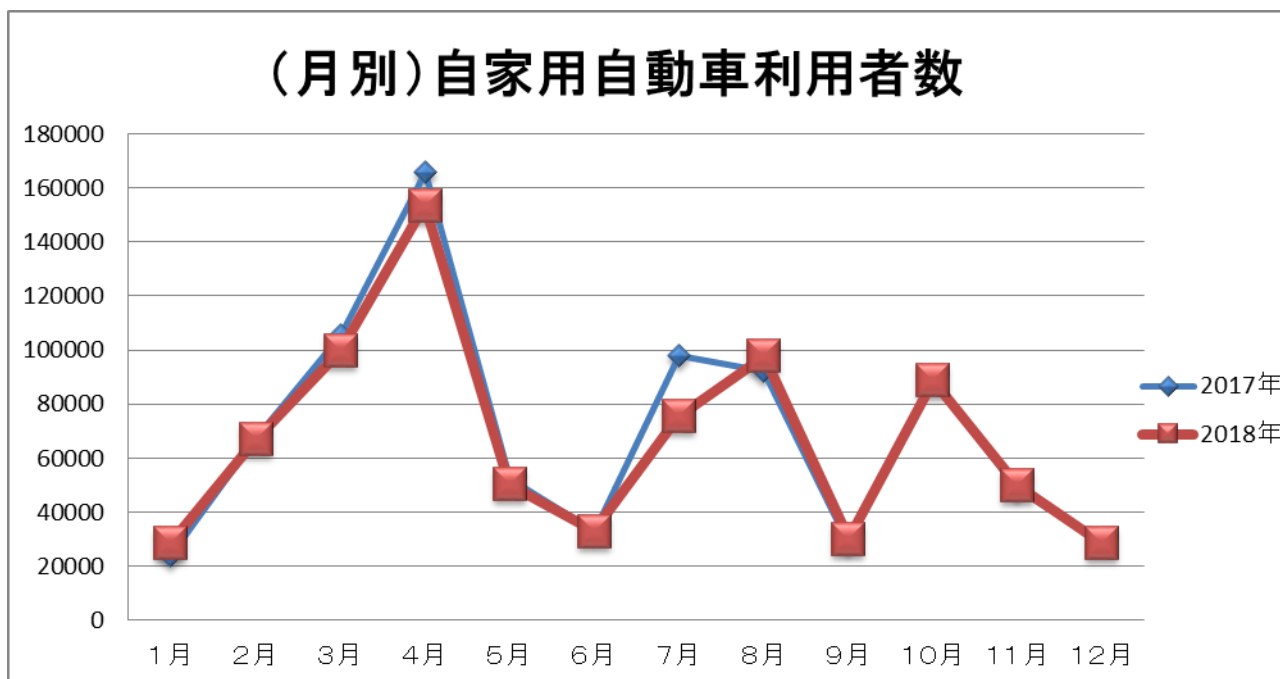
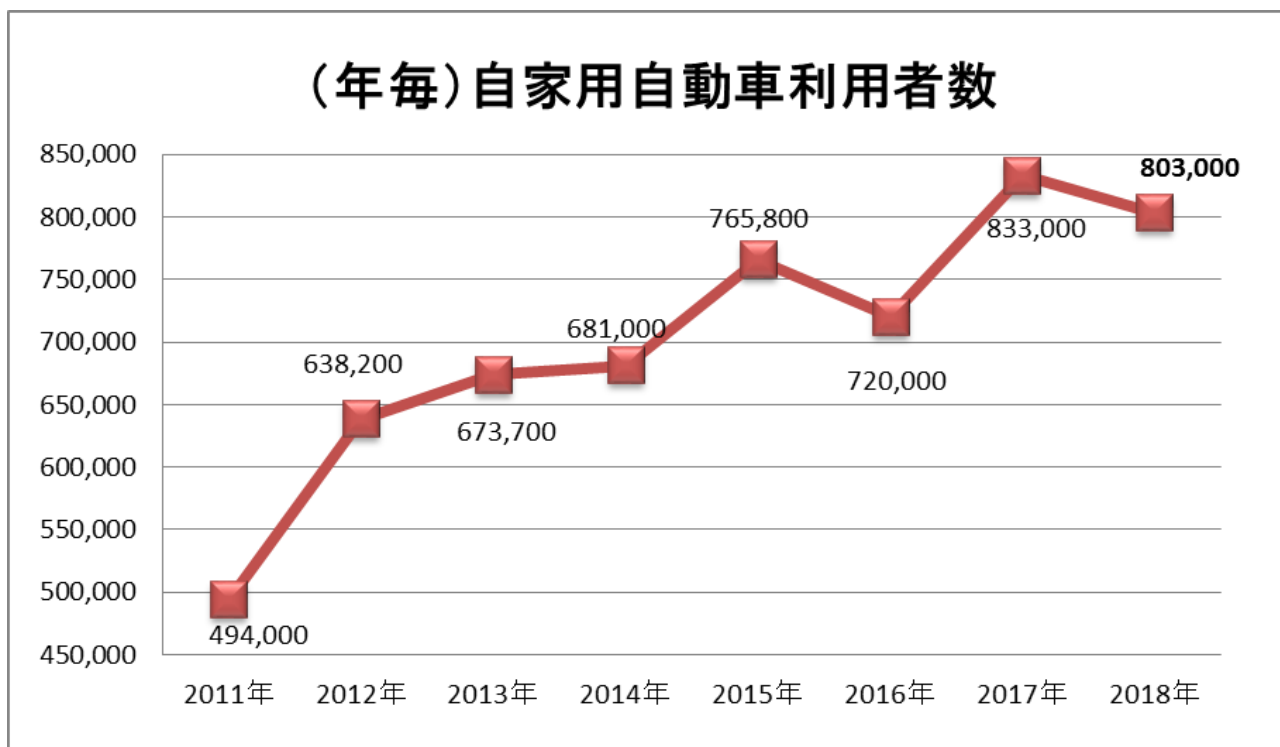




#### (4) 自家用自動車

イベント駐車場利用を除いた市営駐車場などの主要駐車場の駐車状況をみると、駐車台数は約1万5千台であった。近年は、外国人観光客を中心にレンタカー利用が増加しており、ピーク時には、駐車場が不足する状況である。

マイクロバスを含めた自家用自動車を利用する観光入込客は、約80万3千人で、2017年と比較し3万人の減少であった。

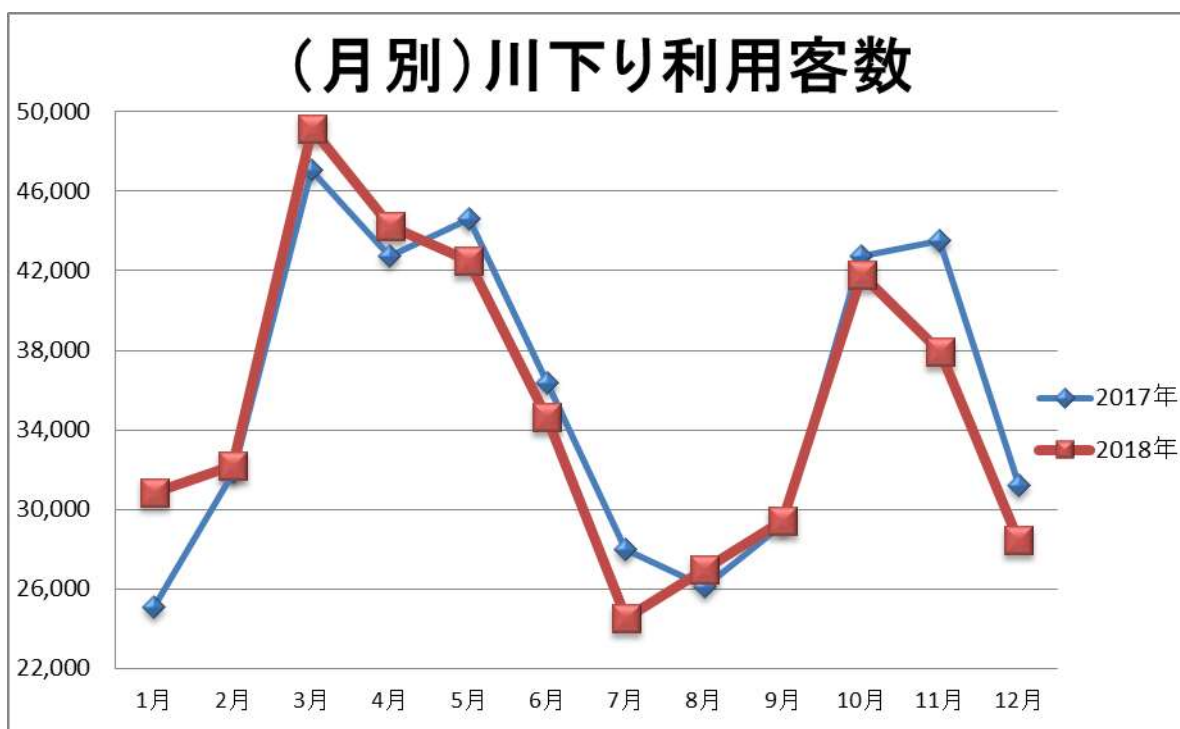
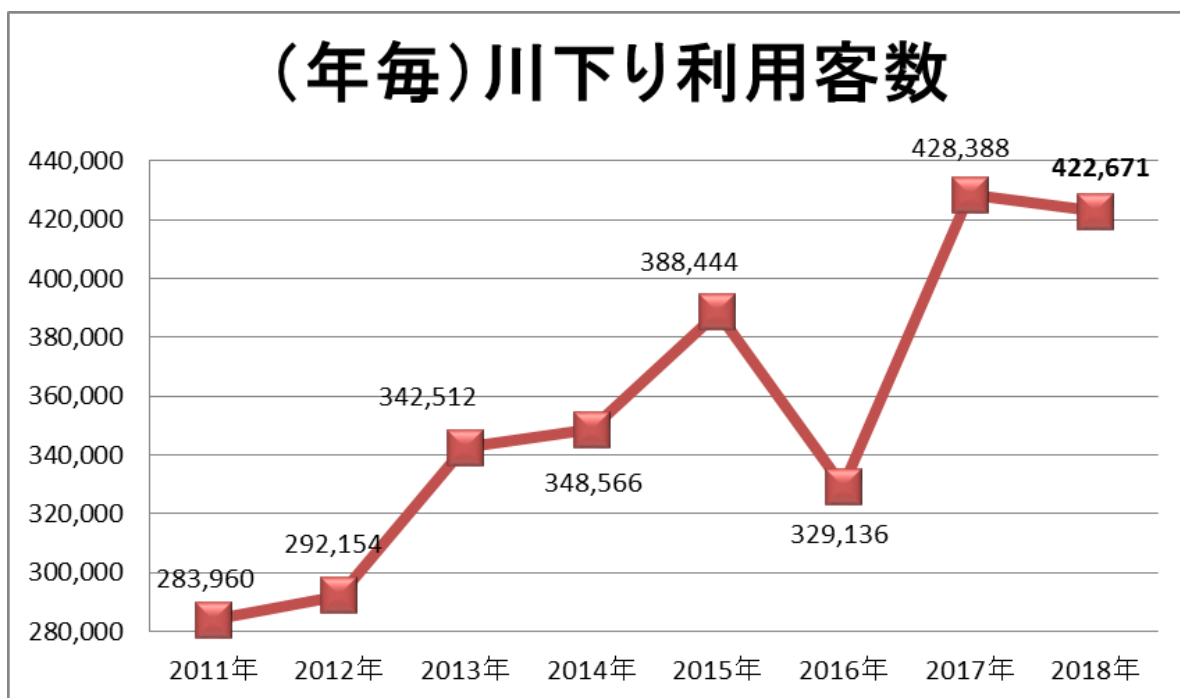


## 6. 主な観光施設の入込客数

### (1) 川下り

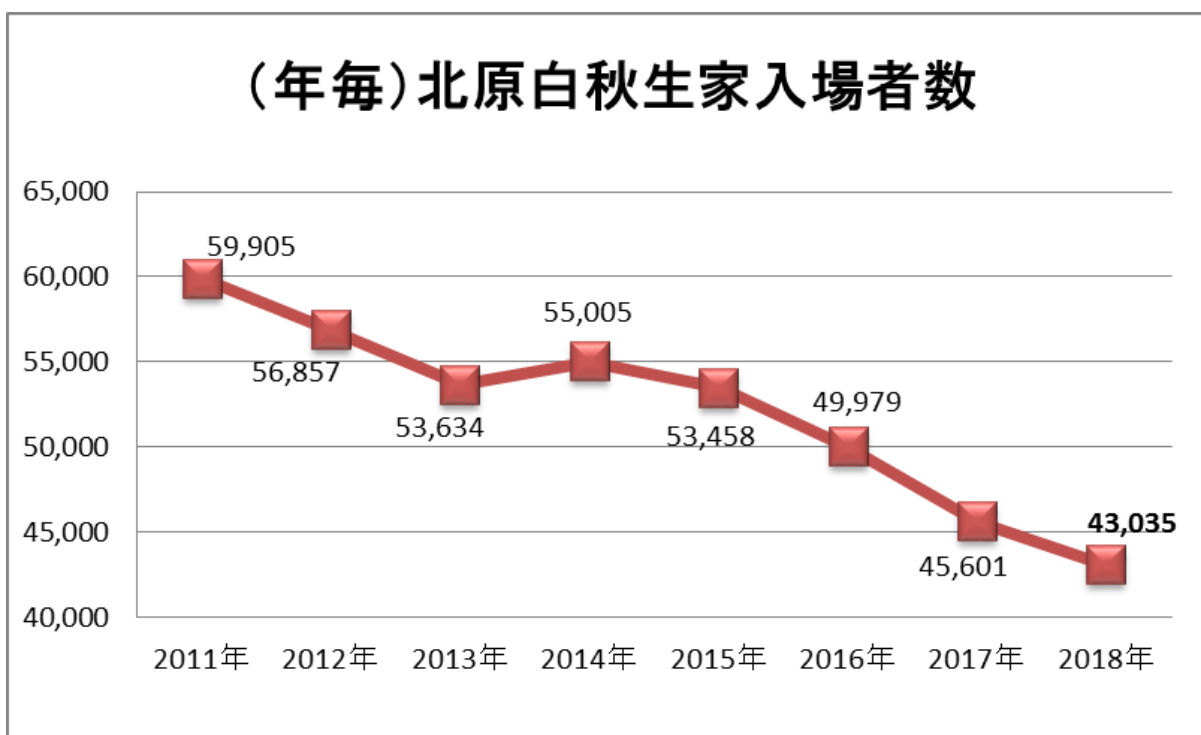
川下りの利用客数は、約42万2千人で、過去最高を更新した2017年と比較し約6千人の減少であったが、ここ数年の動向を見ると、ほぼ横ばいで推移している。

観光協会、舟会社及び行政が協力し、国内外で営業活動を行ったことにより入込客数を維持しているものの、夏場の猛暑等の影響により減少したものと、11月に外国人観光客数が減少したことが影響している。



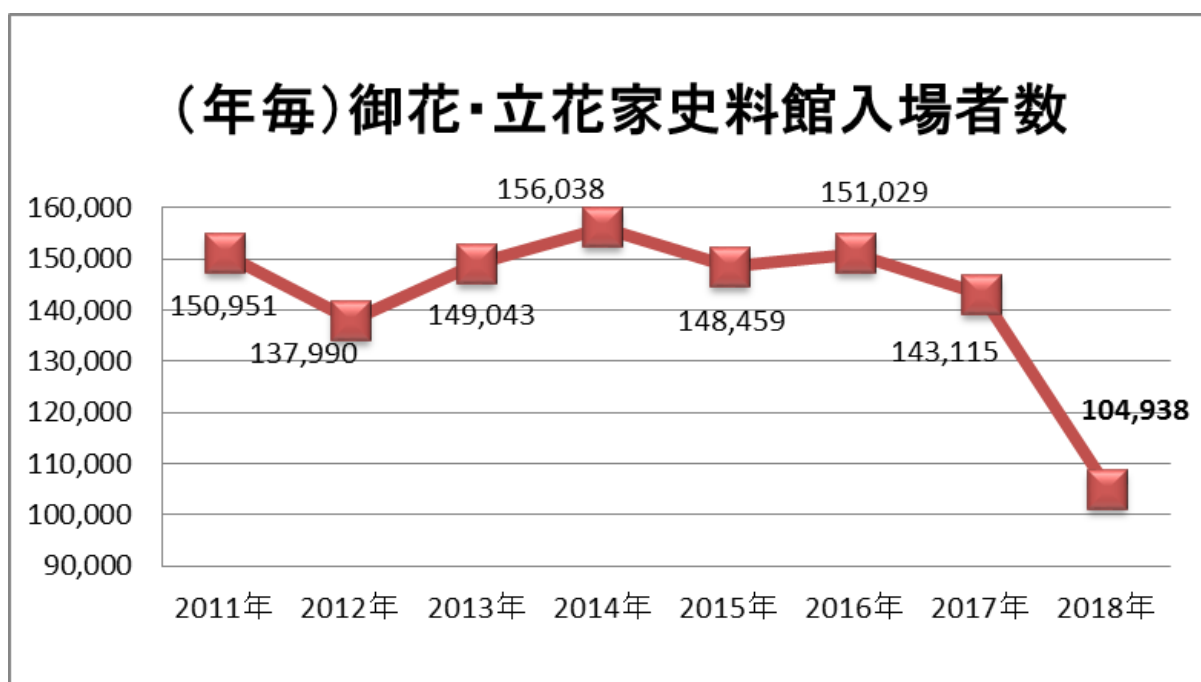
## (2) 北原白秋生家

北原白秋生家の入場者数は、約4万3千人で、2017年と比較し約2千人の減少となった。2014年に微増して以来、減少傾向が続いている。



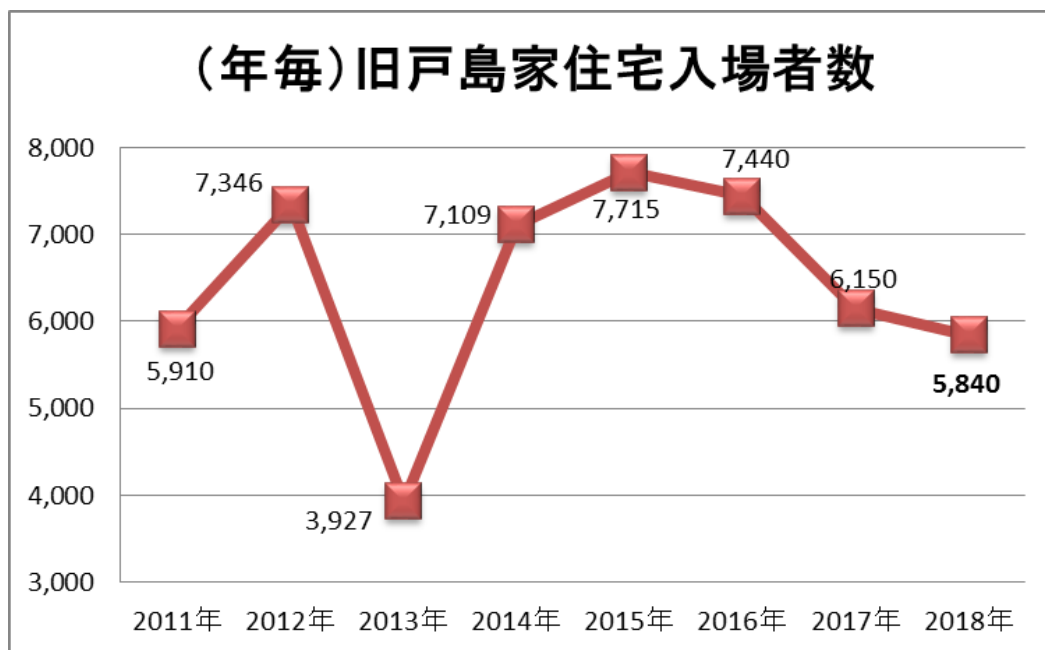
## (3) 御花・立花家史料館

御花・立花家史料館の入場者数は、約10万5千人で、2017年と比較し約3万8千人の激減となった。大型バスで訪れる観光客数が減少し、その影響を受けたもの。



#### (4) 旧戸島家住宅

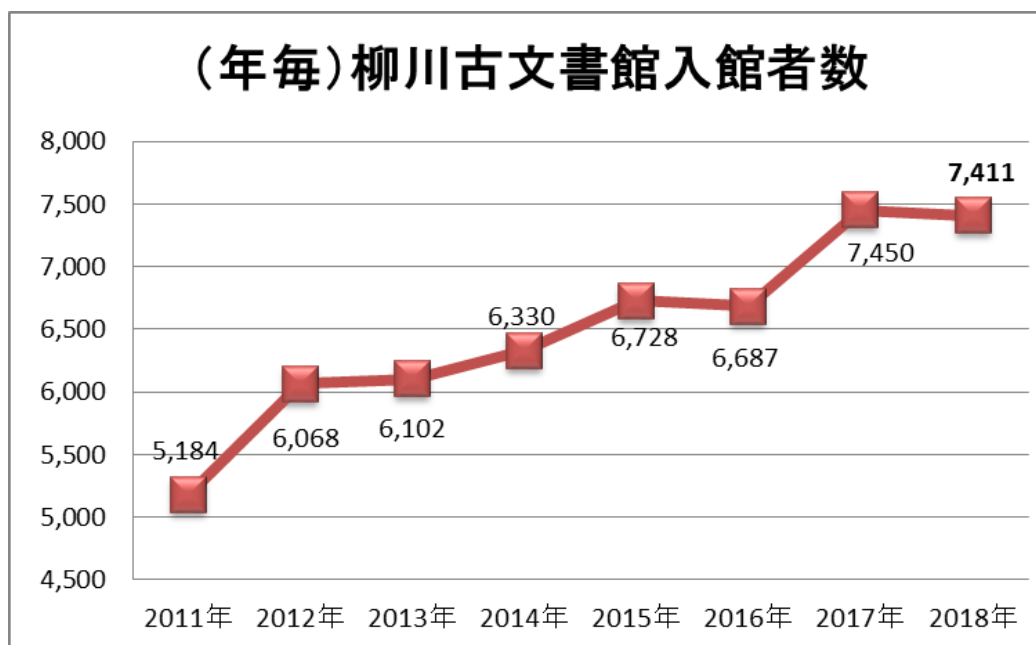
旧戸島家住宅は、柳川地方の武家住宅の典型例として、1957年に建物及び庭園のそれぞれが、福岡県の文化財に指定された。また、1978年には、庭園が国の名勝に指定されている。旧戸島家住宅の入場者数は、5,840人で、2017年と比較し310人の微減となった。



#### (5) 柳川古文書館

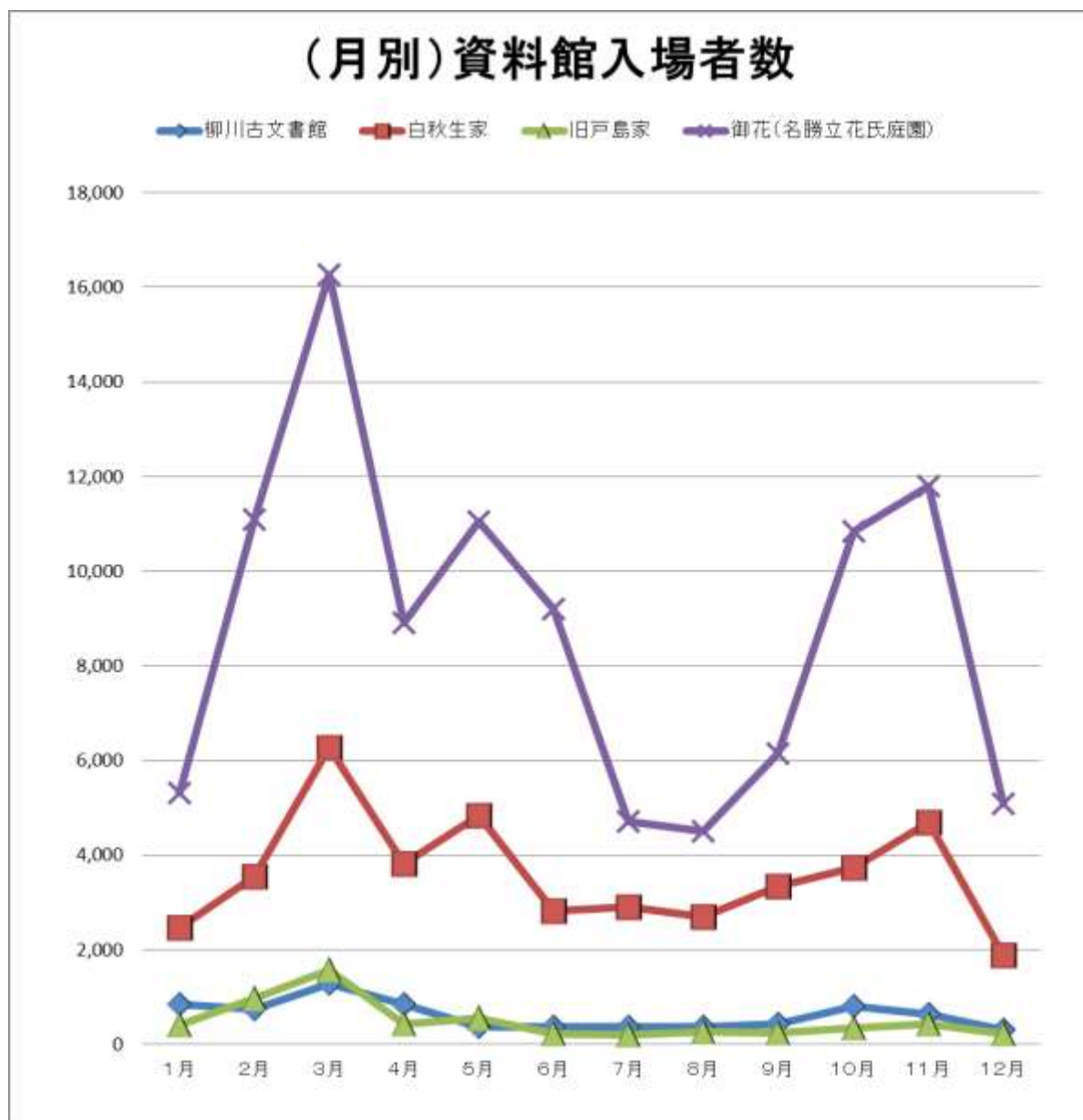
柳川古文書館は、福岡県教育委員会が設置し、柳川市教育委員会で運営管理を行っている施設である。収蔵史料の一部は、国指定重要文化財に指定されている。

このほか、柳川古文書館には、立花宗茂に関する資料も収蔵されている。2017年8月にNHK大河ドラマ招致活動を開始し、徐々に入込客数を増やしたものの、2018年の入館者数は7,411人であり、2017年と比較し微減となった。



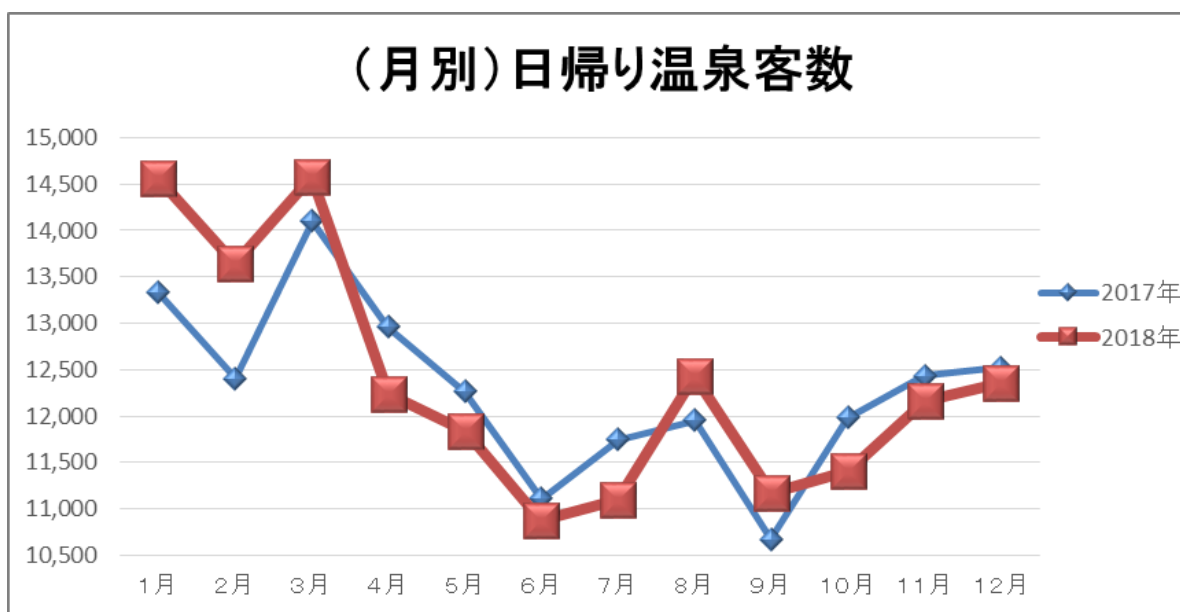
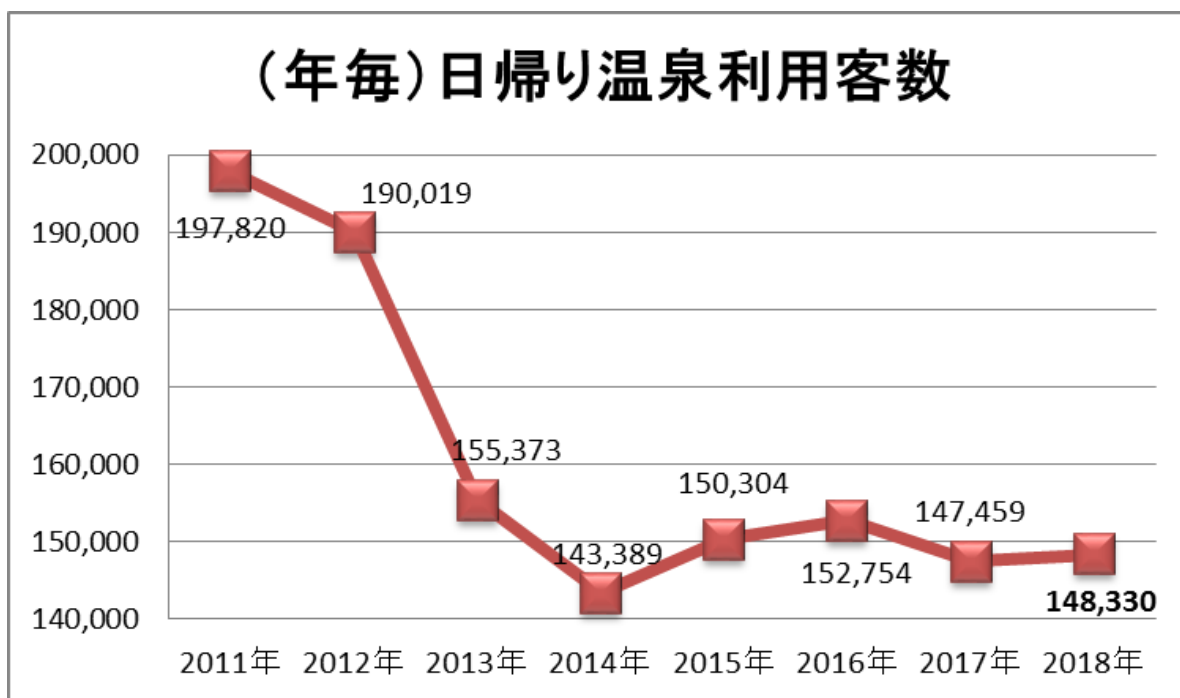
## (6) 資料館入場者数 (月別)

資料館別の入場者数は、御花・立花家史料館が最も入場者数が多く、次いで白秋生家、柳川古文書館、旧戸島家住宅の順となっている。2017年と比較し、2018年は、すべての資料館において入込客数が減少し、全体で約1万2千人の減少となった。



## (7) 日帰り温泉

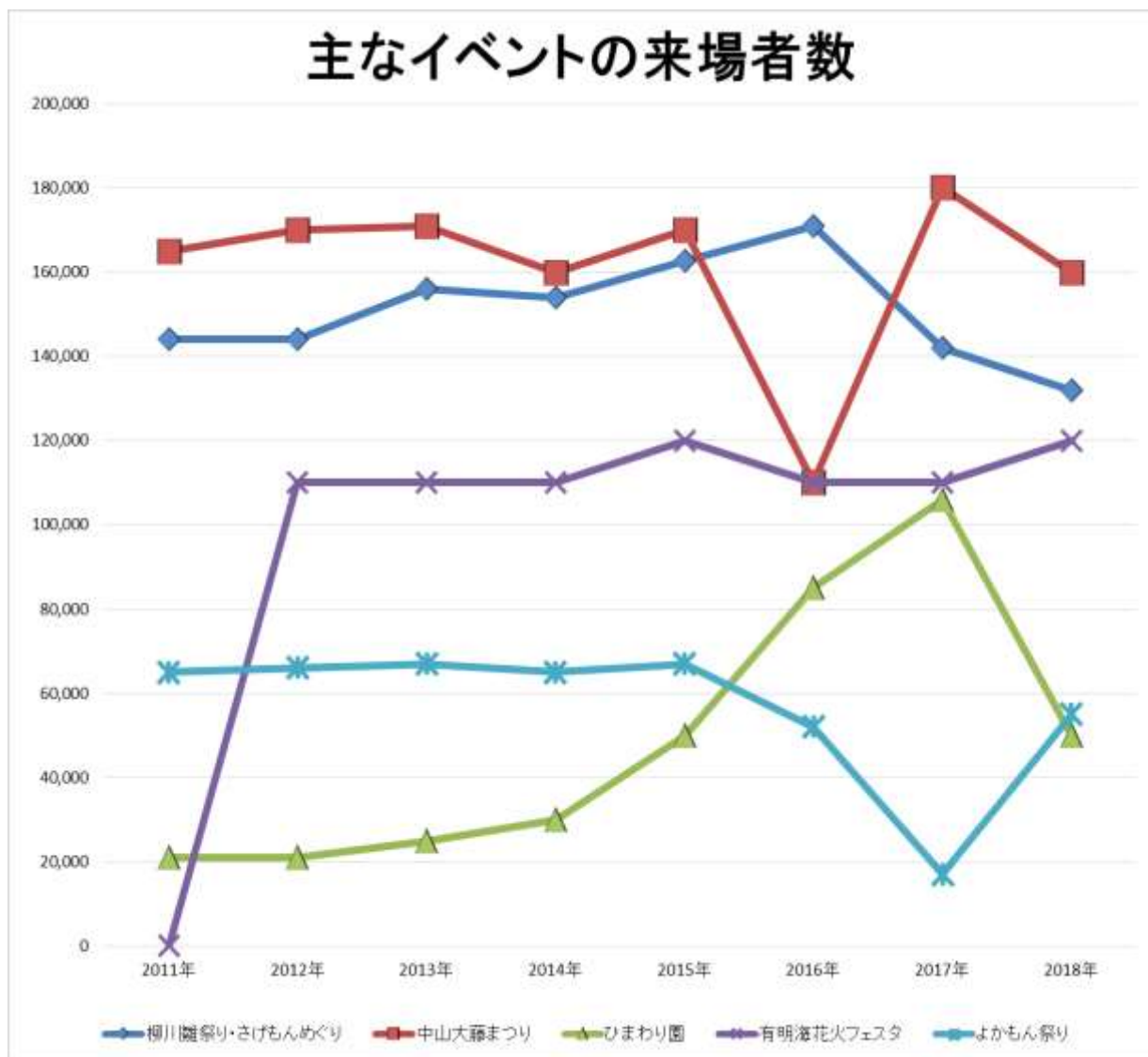
日帰り温泉客は、約14万8千人であり、前年と比較すると約900人の増加となった。  
例年より減少していた2017年1月の入込客数が、2018年は例年どおりに回復したものの。



## 7. 主なイベントの来場者数（主催者発表による）

主なイベントの来場者数は、主催者発表によると、「柳川雛祭り・さげもんめぐり」は約 13 万 2 千人、「中山大藤まつり」は約 16 万人であった。

「ひまわり園」は約 5 万人で、道路が渋滞するほどの人出でにぎわった 2017 年と比較し、約 5 万 6 千人の減少。猛暑の影響によるもの。2018 年で最後の開催となった有明海花火フェスタは 12 万人で、2017 年と比較し 1 万人増加。「よかもんまつり」は約 5 万 5 千人で、天候に恵まれたことにより、2017 年と比較し 3 万 8 千人の増加となった。



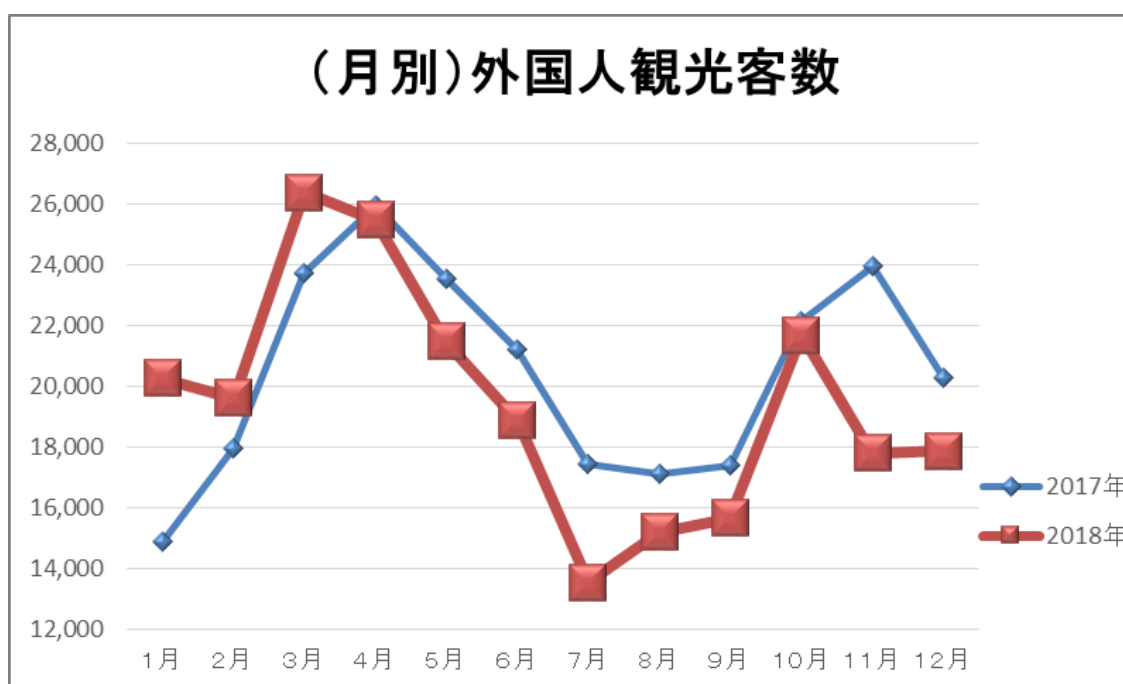
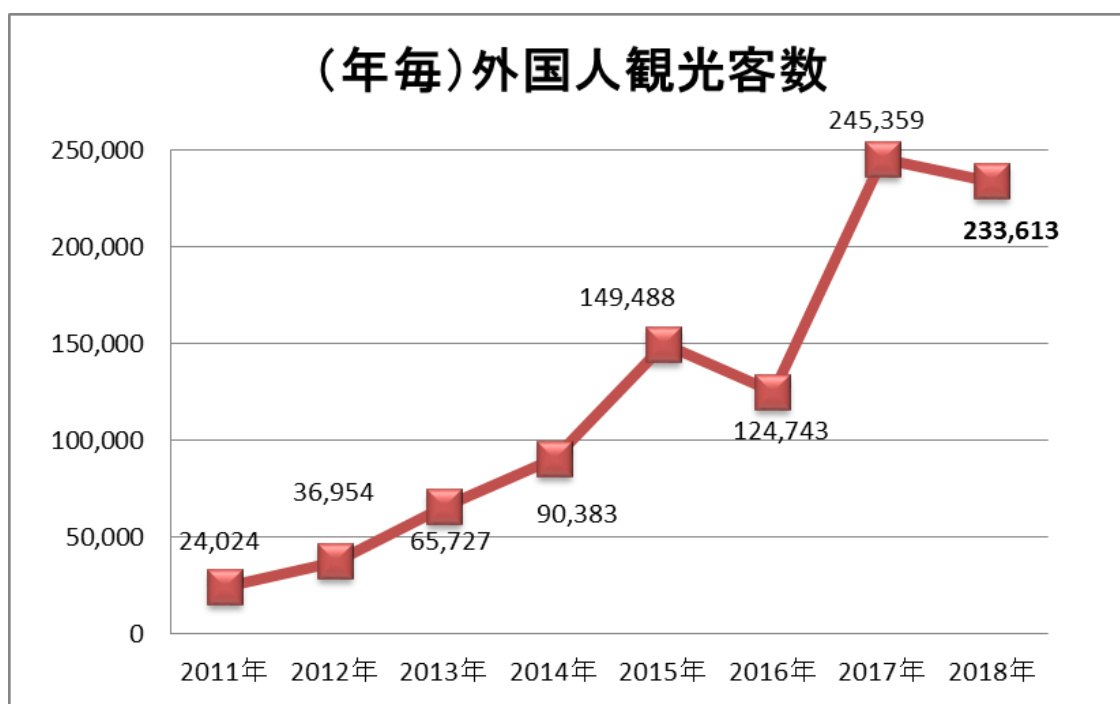


## 8. 外国人観光客

外国人観光客は、約23万3千人で、2017年と比較し約1万2千人の減少となったが、統計を開始した2009年以降最高を記録した2017年に続いて2番目に高い数値となった。国別に見ると韓国、台湾、香港など、アジアからの観光客が大半を占めている。

九州の外国人入国者数は、九州運輸局が発表している2018年の年計で、約512万人となり7年連続で過去最高を更新し、前年比1.04倍となった。また、福岡空港、博多港から入国した外国人が6年連続で過去最高の約309万人で、前年比約1.04倍であった。

一方で、訪日外国人観光客の旅行形態が、団体から個人や小グループに変化したことにより、柳川を訪問する外国人観光客が減少した。



## 9. 1969年（昭和44年）から2018年（平成30年）までの観光動態推移

区分 (年)	入込客数 (人)	観光消費額 (円)	消費額(1人当たり) (円)	宿泊客数 (人)	白秋生家 (人)	川下り (人)	御花・史料館 (人)	外国人 (人)
1969(昭和44年)	232,630							
1970	279,390							
1971	357,710							
1972	408,850				72,037	42,855	109,320	
1973	451,256				74,214	33,243	103,366	
1974	508,087	1,033,752,100	2,035	40,055	80,508	44,456	106,039	
1975	597,803	1,641,477,670	2,746	37,033	97,352	49,856	123,439	
1976	616,128	2,179,065,660	3,537	39,124	103,597	68,680	114,753	
1977	655,332	2,459,792,040	3,754	40,932	128,433	102,997	148,673	
1978	634,854	2,472,051,540	3,894	42,182	124,538	98,099	151,273	
1979	647,202			50,552	139,320	121,852	177,761	
1980	709,273	2,755,995,340	3,886	48,218	151,138	130,669	194,261	
1981	744,720	3,097,512,020	4,159	56,413	147,069	134,002	194,062	
1982	775,255	3,206,645,290	4,136	60,434	158,724	140,535	192,787	
1983	804,111	3,343,847,850	4,158	60,989	164,385	171,685	184,687	
1984	851,100	3,577,549,060	4,203	66,092	188,851	204,694	207,258	
1985	877,500	3,708,718,000	4,226	69,588	203,235	201,337	227,732	
1986	878,000	3,742,323,540	4,262	64,465	205,761	215,168	212,205	
1987	902,000	3,896,384,900	4,320	69,670	208,531	222,785	209,393	
1988	888,500	3,891,563,010	4,380	74,226	201,126	224,917	201,405	
1989(平成元年)	986,200	4,353,949,920	4,415	69,568	214,284	289,380	245,453	
1990	980,300	4,337,242,420	4,424	71,191	197,535	293,099	216,185	
1991	1,117,800	5,139,087,360	4,598	105,828	217,035	362,896	267,613	
1992	1,197,100	6,167,183,200	5,152	101,016	229,743	387,582	293,051	
1993	1,152,700	6,207,328,330	5,385	100,389	207,463	375,733	280,705	
1994	968,300	5,324,329,790	5,499	97,572	166,204	295,329	230,247	
1995	993,500	5,619,051,770	5,656	107,268	160,912	314,704	227,629	
1996	1,032,800	5,847,380,200	5,662	106,641	156,935	340,633	210,951	
1997	1,046,800	5,987,902,950	5,720	99,672	148,600	349,470	235,317	
1998	1,051,500	5,581,155,800	5,308	91,652	140,444	365,383	241,808	
1999	1,052,700	5,436,385,650	5,164	79,390	127,629	389,137	241,563	
2000	1,053,600	5,343,206,400	5,071	70,971	127,665	386,447	242,552	
2001	1,071,800	5,529,153,600	5,159	78,747	118,430	407,354	260,742	
2002	1,073,000	5,460,435,800	5,089	70,135	106,171	411,470	251,005	
2003	1,112,100	5,555,540,000	4,996	65,259	104,474	400,450	237,138	
2004	1,290,000	6,089,742,100	4,721	63,544	82,945	344,864	237,700	
2005(合併後新市)	1,203,000	5,137,591,000	4,271	60,397	80,854	341,573	213,500	
2006	1,255,000	5,312,082,178	4,233	62,434	82,611	359,598	231,150	
2007	1,218,000	4,935,041,637	4,052	54,879	89,099	356,380	188,206	
2008	1,171,000	4,836,692,287	4,130	52,408	77,890	320,943	159,160	
2009	1,156,000	4,783,851,178	4,138	51,548	75,434	316,483	161,342	10,603
2010	1,159,000	4,689,542,363	4,046	42,239	65,149	315,702	133,429	21,506
2011	1,055,000	4,350,205,000	4,123	38,525	59,905	283,960	150,951	24,024
2012	1,173,600	4,537,631,300	3,866	41,710	56,857	292,154	137,990	36,954
2013	1,245,200	4,855,784,250	3,900	41,902	53,634	342,512	149,043	65,727
2014	1,259,700	5,229,003,217	4,151	41,634	55,005	348,566	156,038	90,383
2015	1,366,800	6,064,163,000	4,437	46,942	53,458	388,444	148,459	149,488
2016	1,316,000	6,120,981,000	4,651	51,534	49,979	340,317	151,029	124,743
2017	1,418,400	6,767,747,000	4,771	81,384	45,601	428,388	143,115	245,359
2018	1,364,000	6,647,330,000	4,873	95,776	43,035	422,671	104,938	233,613

注：2004年（平成16年）以前の数値については、合併前の旧柳川市の数値を記載している。